

第7期第4回神戸市立図書館協議会協議内容

日 時：令和4年8月23日（火） 13時～14時30分

場 所：神戸市立中央図書館2号館3階 閲覧室(2)

出席者：(委 員)湯浅会長、桜間副会長、元村委員、石塚委員、一居委員、
北川委員、田中委員、齊藤委員

(事務局)中央図書館長、総務課長、総務課担当課長、利用サービス課長、
総務課担当係長3名、利用サービス課担当係長3名、総務課担当

傍聴者：2人

1 開会

- ・新委員紹介
- ・中央図書館長挨拶

2 報告

- (1) 令和3年度市民満足度調査結果について
- (2) 令和4年度事業計画について
- (3) KIITO 三宮図書館について
- (4) 新館整備状況
- (5) 新図書館システムの導入

3 協議

- (1) 令和3年度神戸市立図書館事業評価（案）について

4 閉会

- ・第7期任期満了に伴うご挨拶

【開会】

・新委員紹介

石塚委員よりご挨拶

・中央図書館長挨拶

【報告（前半）】

事務局より報告。

報告事項 (1) 「令和3年度市民満足度調査結果について」(資料3)

- ・昨年度の調査結果について報告。

報告事項 (2) 「令和4年度事業計画について」(資料4)

- ・令和4年度の事業について目標や要点を解説。

【報告に関する質疑応答】

(会長) 報告事項の(1)と(2)に関して、ご質問ご意見は特にないか。引き続き、(3)(4)(5)について事務局からご報告いただく。

【報告(後半)】

事務局より報告。

報告事項 (3) 「KIITO 三宮図書館について」(資料5)

- ・7月26日デザインクリエイティブセンター神戸に移転開館した後の状況について報告。

報告事項 (4) 「新館整備状況」(資料6)

- ・今後の予定と進捗について説明。

報告事項 (5) 「新図書館システムの導入」(資料7)

- ・新機能やスケジュールについて説明。

【報告に関する質疑応答】

(会長) (3)(4)(5)に関してのご質問ご意見、また、(1)(2)についても何か思いついたことがあれば出していただきたい。

(委員) (5)「図書館システムの導入」(資料7)だが、新たな図書館サービスにMy本棚やweb書棚、貸出履歴の閲覧等とある。私などは読書ノートをつけているが貸出履歴の閲覧というのは個人情報の観点から非常に危ういと感じる。貸出履歴の閲覧の要望は多いのか？

(事務局) 電話やアンケートでも要望をいただいている。個人情報の保護という点では気を付けなければならない。システムでは、個人のパスワードでログインし閲覧するため、他人の履歴を閲覧することはできない。

(会長) 図書館の自由の観点、個人情報の保護の観点から、非常に重要な指摘である。ただ、今日では情報を自己でコントロールすることが主流で、利用者の要望に応じて図書館が情報を提供するというのは実際に全国の図書館でも行われてきている。インターネットサービス等の利用でそういう感覚が一般化してきている。それをうまく使って利用者自身が読書の記録を活かしていけばよい。

(委員) セキュリティの問題にも不安を感じる。

(会長) 図書館でも検討されたはずだが反対意見はあったか。

(事務局) 反対は聞いていない。希望する利用者の声大きい。

(委員) 今私が窓口で尋ねたら履歴を見ることができるのか。

(事務局) 今は履歴を見ることはできない。新システムを導入してからのサービスである。

- (会長) 現在、記録は消去されるから「履歴はない」という理解である。
- (委員) KIITO 三宮図書館について、5年間でなくなるということか。デザインも良くもったいないと感じる。
- (事務局) 今は撤退を予定しているが、ポートアイランドやHAT神戸の住人の来館が増えているという。非常にきれいで洗練された図書館であり5年後に名残惜しいという声は必ず上がるだろうとは感じている。
- (委員) 名谷図書館、三宮図書館、東灘図書館をよく利用している。夏休みにも小学校6年生の次女と利用したが、KIITO 三宮図書館がすごく雰囲気も居心地も良く1番好きな図書館だと言う。私も仮移転先ではもったいないと思う。図書館を上回る利用が他になければ残してほしい。今までにない図書館で、本も探しやすい1時間でも2時間でも本を読んで過ごせる。旧三宮図書館は本を受け取ってすぐ帰る雰囲気であった。こども本の森や東遊園地といった周辺エリアが活発になってきており、南のほうまで足をのばす意味でもすごくいい施設が出来たので継続する方向であったら嬉しい。
- (事務局) KIITO 三宮図書館に対し非常に高い評価をいただきまずお礼申し上げたい。我々職員も仮移転だからというのではなく、中央区またその周辺の区民の皆さんにとってかけがえのない図書館を作った。グレードの高いものを市民の皆さんに使っていただくことができ喜んでいるが、今私共が把握しているのは、5年後の令和9年度に勤労会館跡地に都心三宮のランドマークとなる高層のビルが出来、そこに図書館もお目見えをするということだ。ただKIITOは、元々コンクリート床だったところをフローリングにする等かなり丁寧に作らせていただいている。今後の利用や管理について、これから数年間アイデア出し合い、場合によっては市民の皆さまのご意見を頂戴しながらと考えている。今KIITO 三宮図書館は約7万冊を所蔵しているが、よほど傷んだり古くなったりした本以外は基本的にはまた三宮に戻すことになる。そういった本の扱い方も含め、市民に納得してもらえる施設運営を考える。
- (委員) システムについてお聞きする。これは単に貸出だけのシステムなのか、あるいは例えばアンケートのような付属機能が備わったシステムなのか。
- (事務局) 現段階ではアンケート機能はついていない。
- (委員) 大学の授業システムは今、履歴やアンケートを紐づけでき、どんなタイミングでも要望を吸い上げることができるようになっている。図書館でもその可能性があるか検討いただけるとさらに素晴らしい。ある程度のデータが集まれば利用の動向が見え、業務やサービスに活用できるだろう。
- (会長) 予期しない一斉アンケートにはない相互方向性の可能性が考えられる。パッケージのオプションにそういった機能はないのだろうか。
- (事務局) 非常に有益な指摘をいただいた。新システムでは図書館を利用される方へのご

案内などメール機能を充実させていく。利用者の方と私共とでコミュニケーションを図り、より発展的にアンケートに運用していくなど今後の研究課題としたい。

(会長) 検討いただくということでお願いしたい。続いて協議に入る。令和3年度神戸市立図書館事業評価について、事務局からまず説明いただく。その後、協議会として評価をまとめる必要があるので委員の協力をお願いする。

【協議】

事務局より説明。

協議事項(1)「令和3年度神戸市立図書館事業評価(案)について」(資料8)

・事前に図書館案を各委員に送付し、回答をいただいた。評価と付随するご意見を【図書館協議会の評価・意見】として各項目に記載した資料をもとに説明。

【協議事項に関する質疑応答】

(会長) 説明および図書館の自己評価について質問があればお願いする。特に質問がなければ各項目について協議会としての評価に移る。その前に、(資料8)最終ページ「図書館協議会の評価意見」に「デジタル絵本の制作」という言葉がある。参考までに注釈を配布した。

1~4の項目は事務局の評価案と委員の評価が一致している傾向だ。基本的には委員の評価を尊重したいが、評価が拮抗している5番について、意見を表明してほしい。

(委員) 図書館の自己評価Bの評価基準を最初に教えていただきたい。

(事務局) (資料8)の先頭に書いてある通り、Bは「概ね計画通りだが、不十分な点や課題が残った」という基準。図書館がBをつけた理由は課題として残っていることが多いため。

(委員) 自己評価に○と△があり、△があるとBということか。頑張っているのでは。

(会長) B評価した委員の意見もいただきたい。今改めて、神戸市立図書館におけるユニバーサルデザインを考えると何が足りないのか、あるいは方向性の見直しが必要だとか、委員の意見はいかがか。

(委員) 資料に検討中や準備中と書いてあるため課題が残っていると判断しBとした。全体の状況が我々にはわかりにくいところもあるので事務局の評価を尊重した形。

(会長) A評価した委員は、むしろ事務局の自己評価が控えめすぎるのではないかという感覚。

(委員) エビデンスのある資料は事務局評価案のみ。ここからBと判断するのは難しい。ただ、BはBで意味があり、今後Aを目指すという意味表明であればBでも構わないと思う。

(会長) 事業評価を受けて前進する、そういう観点からBもあり得る。委員の票数的に

は確かに A が多い。A の意見があれば検討したい。

(委員) 「ユニバーサルデザインに配慮したサービスの提供」という項目では、どの程度を目指されているのか。ハード面だと新館整備でクリアできる問題があるとか、見通しがあればお聞きしたい。

(事務局) 当然バリアフリーの問題、例えば車椅子利用がしやすい等、神戸市の図書館全体で考えるべきことがある。この先も考えていく課題だ。

(会長) 私個人の感覚では、多言語対応やバリアフリー対応と言うとき、ICT 利活用とこのを中心に考える。例えば、多数の言語で書架サインを作成するのは困難だが、二次元バーコードを用意しかざせば自動翻訳できる時代がきている。コストをかけずに簡便なシステム、例えば観光客向けに京都のバス停がやっているような、多言語対応を自動翻訳に頼る手もある。紙のパンフレットを作成している間に二次元バーコードを用意すれば済むようなことをまじめに考えすぎて時間がかかっているのでは。二次元バーコードがすべてに有効という意味ではないが、音声読み上げ・多言語翻訳・自動翻訳などを取り入れる工夫をしてはどうか。

それはともかく、票が割れているところは慎重に考えたい。この度の評価を B とし今後 A を目指すと考えるのであれば B はいかがか。異論がなければ事務局が判断した B としてよいか。他の項目について、事務局案と委員の評価が合致しているので、1 番 A、2 番 A、3 番 A、4 番 B、6 番 A、と評価を確定し、今議論してきた 5 番については、今後の期待を込めて今回は B という判断で決したいがよろしいか。以上、改めて、1 番が A、2 番が A、3 番が A、4 番が B、5 番が B、6 番が A、と協議会の評価を定める。ただ今の協議の結果を本協議会の令和 3 年度神戸市立図書館事業評価とし協議会としてのコメントを付して公表する。以上、令和 3 年度の神戸市立図書館事業評価について終了する。今回で第 7 期の協議会は終了である。委員の皆様、2 年間ありがとうございました。

【閉会】

・ 第 7 期任期満了に伴うご挨拶

一居委員、北川委員、田中委員よりご挨拶